



令和6年7月18日
第46号
ときわ会新潟北支部
広報委員会

巻頭言

真価を問う問いを問い続ける

～ライフワークとしての教職～

支部長 藤井正人 (葛塚小 昭63年度)



五月十一日に開催された支部総会で、私は、働く目的や意味に関わる働き方のステージとして次の三つを示しました。改めて簡単に確認します。

- ・ A ライスワーク
- ・ B ライクワーク
- ・ C ライフワーク

A ライスワークは、生活等に必要なる収入を得るためのワーク。B ライクワークは、好き・楽しさが基盤となるワーク。C ライフワークは、使命感や天職意識のあるワーク。

そして、昨年度ときわ会創設百五十周年記念に関わる取組である「真価を問う十三の問い」は、私たちの教職員としての働き方をC ライフワークの

う一人の石切職人に同じことを聞きました。すると、その職人は、表情を輝かせ、こう答えました。「今、私は、多くの人々の心の安らぎの場となる教会を造っているのです。」

ライフワークのステージにあるのは二人目の旅人であるの言うまでもないでしょう。では、その違いはどこから生じるのか。それは、「今、自分がしている仕事の彼方に何を見つめているのか」にあります。

今、自分が実際に携わっている仕事が大変困難な状況にあるかもしれせん。そんな時に、目の前の仕事にばかり目がいつてしまうと、ひどく不機嫌になったり、時には心が折れてしまったりもします。

目の前の仕事に真摯に取り組みながら、その仕事はどんな価値ある未来につながっているのかを見つめることが大切です。そのことで、困難な今を乗り越えることができます。

以上を踏まえて、改めて十三の問いを振り返ります。例えば問い四「〇〇として最も大切にしていることは？」例えば問い六「十年後にどんな〇〇になつていたいのか？」等々、私たちの見つける先を未来に、または奥深く誘ってくれる問いが目白押しです。

ぜひ、これからも十三の問いの一つでも二つでも自分に問い続けてほしいと願っています。そして、自身の教職人生をライフワークのステージへ押し上げることを切に期待します。

令和六年度
ときわ会活動の重点

- (一) 主体的に学び続ける会員一人一人の資質・能力を高めるため、ときわ会の多様な人材を活用し、ニーズに応じた魅力ある研修を推進する
- (二) ときわ会の多様な人材をつなぎ、会員一人一人の人間力を向上させるため、各種会合の内容と方法を工夫し、組織の活性化を図る
- (三) ときわ会の趣旨や活動の理解、社会への認知を図るため、研修や活動の情報公開と発信を進め、会員内外のネットワークを強固にする

令和六年度
新潟北支部活動方針

- (一) ときわ会本部並びに新潟市連合との連携を密にして、支部活動の発展に尽力する。
- (二) 会員の新たな教育課題に対し、ライフステージに応じた実践的指導力と人間力の向上を図る研修を充実させる。
- (三) 「信頼」を基盤とした会員相互の連帯感・所属感を醸成する。あわせて、会員一人一人のライフステージに応じた支援と人材育成を図る。
- (四) 開かれたネットワークの構築と外部との連携の一層の充実を図る。